

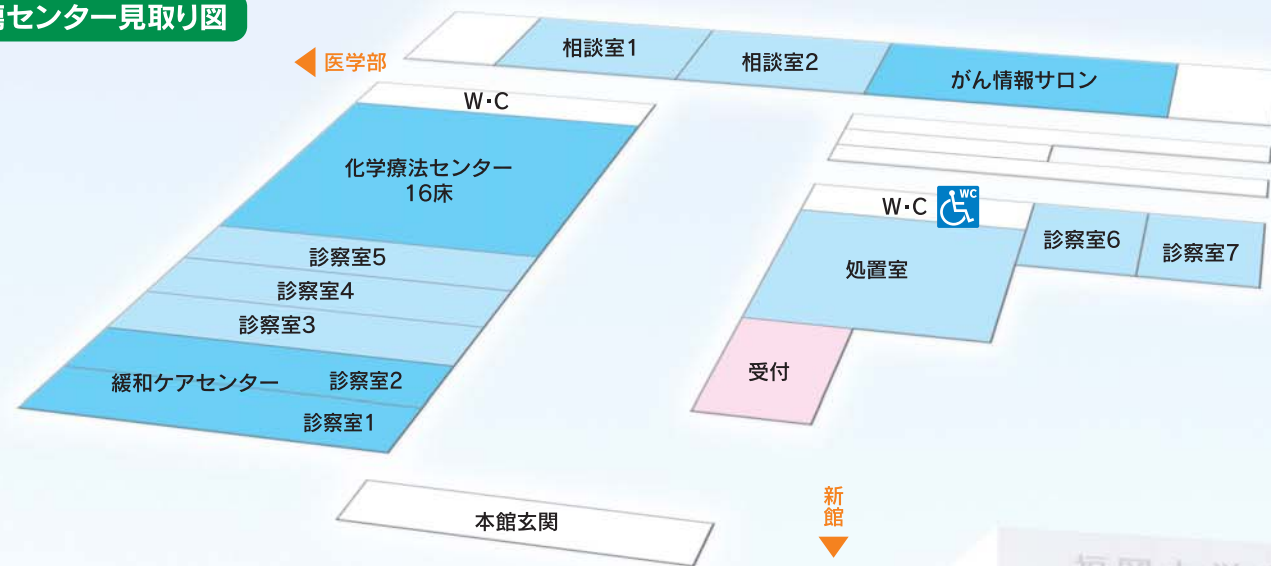
リニューアルした腫瘍センターについて



腫瘍センター長
医師 田村 和夫

2007年に設立された腫瘍センターは4部門より構成されていますが、当初、各部門が本館1～2階に分散していましたので、その活動が見えにくい状態でした。このたび本館旧内科外来を改装して1階南側に集約、2011年10月1日より新腫瘍センターとしてオープンしました。その中には、腫瘍内科医が常駐しがん薬物療法を行う化学療法センター、疼痛緩和やリンパ浮腫などのケアをする緩和ケアセンター、がん患者・家族の相談を受けるがん相談支援センターが配置され、放射線治療部が1階北側にあります。がん患者さんは本館1階で、手術以外の診療をすべて受けることができ、外来受付、採血をはじめ、内視鏡検査を除くほぼすべてに必要な検査が本館で完結します。中庭に面した広い外来診察室と治療空間が確保され、静かな環境で診療が受けられます。さらに腫瘍センター奥には、がん情報サロンが設置され、がん関連図書の閲覧や談話ができる憩いの場となっています。これからも皆様が安心して効果的ながん診療が受けられるように努力してまいります。がん診療に関して何か質問がございましたら、まず腫瘍センターをお尋ねください。

腫瘍センター見取り図



化学療法部門
医師 高松 泰

化学療法センター(化学療法部門)

2011年10月に本館の1階に新しい外来化学療法室がオープンしました。部屋が広く明るくなり、より良い環境で抗がん薬治療ができるようになりました。

白血病、悪性リンパ腫などは抗がん薬治療により治癒が期待できます。乳がん、肺がん、胃がん、大腸がん、婦人科がんなどは、根治的手術後に抗がん薬治療を行うと再発率が下がり、腫瘍が大きい場合は抗がん薬治療により腫瘍が縮小し手術が可能になることがあります。また再発・転移性の腫瘍では、腫瘍の進行を抑え痛みなど腫瘍に伴う症状を緩和することができます。

外来通院で抗がん薬治療を行うと、患者さんは通常の生活をしながら治療ができます。家族と顔を合わせながら生活することで精神的な落ち着きが得られ、自分の生活リズムに合わせて使い慣れた食卓、布団(ベッド)やトイレで食事、睡眠、排泄をすることで、身体的にも健康を維持することが容易になります。その一方、医療従事者が患者さんを観察できる時間は短くなり、副作用が出現した場合に対応が遅れる危険があります。化学療法部門では、医師、看護師、薬剤師が協力して、外来で抗がん薬治療を安全かつ適正に実施できるように取り組んでいます。外来化学療法室では専門的な知識をもった医師、看護師、薬剤師が治療を行っています。抗がん薬治療のことでわからないこと、不安なことなど、何でもご相談ください。



化学療法センター



緩和医療部門
医師 廣田 一紀

緩和ケアセンター(緩和医療部門)

緩和医療部門は主に緩和ケアチームの運用と緩和医療の啓発を行っています。緩和ケアチームとは、がんの患者さんの痛みや精神的な苦痛のみならず、ご家族のつらい気持ちなどをサポートするチームです。当院の緩和ケアチームは、つらい症状を和らげると言う意味で「症状緩和チーム」と呼ばれています。症状緩和チームの発足は2006年で、麻酔科、精神神経科、腫瘍内科の医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師や臨床心理士などの専門性の高いスタッフが協力し、毎週水曜日に検討会や回診を行っています。毎年100名程のがん患者さんの管理を、病棟や外来スタッフと共に行っています。当院には、緩和ケア・ホスピス病棟がありませんので、入院中の患者さんには病棟に出向き対応しています。今回、新設された緩和ケアセンターは、外来診察室が腫瘍センター内にありますので、化学療法などの治療を受けている体力が低下した外来患者さんも、スムーズに併診していただけるようになりました。

啓発活動は、勉強会や研修会などを中心に行っています。我々を含む医療スタッフが緩和医療の正しい知識を身に付け、少しでも皆様ががんの苦痛を和らげるように努めています。



がん相談・支援部門
看護師 平迫 恵子

がん相談支援センター(がん相談・支援部門)

がん相談・支援部門は、がん患者さんやそのご家族などが自由に集い、語り合ったり、情報交換するためのスペース「がん情報サロン」を本館1階腫瘍センター内にリニューアルし常設と致しました。「がん情報サロン」は、ソファに座って会話できる談話室と、がんなどに関する本をそろえた図書室があり、情報検索のためのインターネット(有料)も使用ができます。市民から募ったボランティアスタッフが案内や図書の整理を担っており、がんの療養に関して個別の相談(無料)には、看護師が対応しています。がん療養をするうえでの不安や悩みが少しでも和らぐことにつながればと考えています。

「がん情報サロン」のご利用時間は、外来診療・化学療法・緩和ケアなどの外来稼働時間とほぼ同じで、通院患者さんや付き添いのご家族が受診の待ち時間に利用できるようになっています。また、がんに関心がある一般の方々の利用も可能です。どうぞ、お気軽にご利用ください。



がん情報サロン

ご利用時間

平日: 8時40分～16時40分
土曜日: 8時40分～11時50分(日曜・祝日は休み)



がん地域連携支援部門
医師 石塚 賢治

がん地域連携支援部門

がんの治療成績は、最近の治療技術の進歩により少しずつですが向上しています。より侵襲の少ない手術、より毒性が少ない抗がん剤の開発に支えられ、入院期間の短縮が可能になり、術後の早期退院や外来化学療法が急速に導入されてきました。家庭で少しでも日常生活に近い形で治療を行うことは、患者さんの生活の質の向上には貢献しますが、その完遂のためには自宅近くのかかりつけ医の役割が非常に重要です。その体制の構築ががん地域連携支援部門の役割です。

かかりつけの先生方と手術や化学療法を行うがん拠点病院が切れ目なく患者さんにケアを提供できることを目指して構築しようとしているのが「がん地域連携クリティカルパス」です。現在は早期の5大がん(胃、大腸、肝、肺、乳がん)を対象にして全国的に推進されており、福岡県でも県内の医療機関で共通のパスを作成し運用が始まり、より使いやすく患者さんのために役立つシステムの構築のための第一歩を踏み出したという状況です。がん地域連携支援部門では、院内各診療科・部署、近隣あるいは遠隔の先生方と御一緒に、患者さんがどこにお住まいでも均質な医療に容易にアクセスできるシステムと、患者さんにも医療機関にも安全・安心・暖かいがん医療の構築を目指しています。